

ICTの導入で生乳生産性の向上と省力化を実現!! (渡島農業改良普及センター渡島北部支所)

背景

【八雲町の概要】

- 酪農を主体とし、耕種では種ばれいしょ、水稻(もち米)、軟白ねぎ、花きなどの複合経営が行われている
- 農家戸数は高齢化や後継者不足による離農が進み、年々減少している
- 酪農は協業法人化による規模拡大が進み、地域の生乳生産量維持が図られている

【地域の課題】

- H28年に酪農家2戸で協業法人が設立され、H30年7月に580頭規模の牧場が稼働した
- 搾乳ロボット、哺乳ロボット、分娩監視カメラ等が導入され、新システムに対応した飼養管理が必要となった

普及活動内容

○搾乳ロボットに対応した管理



個体乳量
チェック

訪問回数
チェック

○給与飼料の適正化



搾乳ロボット
の効率的な
稼働に向け、
給与飼料を
確認!!

○分娩監視モニター

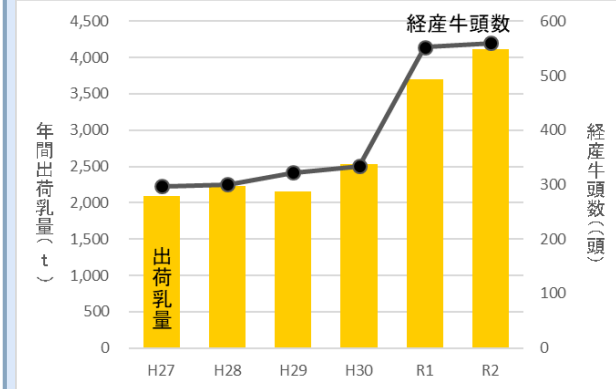


モニターや
データを
チェックしな
がら分娩状
況を確認!!

普及の成果

【具体的な成果】

○地域生乳生産量の拡大!!



○労働時間の削減!!

1頭あたり労働時間
27.2 → 20.5 時間/頭・年

【成果のポイント】

- 稼働当初はトラブルが発生したが、生産者・メーカー・関係機関で1つずつ検証し、問題解決に繋がった
- 乳量は目標に達していないが、関係機関の連携した継続支援により、個体乳量は向上している